

今回の「ホテル・旅館業・宿泊業編」では、「ホテルオリオンモトブリゾート&スパ」の省エネに関する取組を紹介いたします。

## ■取組のきっかけ・背景

ホテルオリオンモトブリゾート&スパでは沖縄の恵まれた水・太陽・地熱そして気候を最大限に生かした「水と空気のトータルエネルギーシステム」を構築することによって、暑熱地域の省CO2技術を先導する環境共生リゾートホテルの創生を目指しています。その経営方針

## 「環境共生」型の地球に優しいホテル オリオンモトブリゾート&スパ



〒905-0207  
本部町備瀬 148 番地 1  
TEL.0980-51-7300

＜主な省エネ対策＞

- ①デシカント空調
- ②太陽熱温水器
- ③EMSの導入
- ・平成29年度  
デマンドサイドマネジメント表彰  
「経済産業省資源エネルギー庁長官賞」
- ・第6回  
カーボンニュートラル賞 九州支部  
「カーボンニュートラル賞」

を元に、同ホテル建築の際に、省エネ設備や機器の導入を行いました。

## ■主な取組

同ホテルでは、エネルギー使用割合の大きい空調や給湯設備について、省エネ設備を導入しました。さらにEMS（エネルギーマネジメントシステム）を取り入れ、より効率良く設備の維持管理や稼働を行えるようになり、同規模のホテルと比較して、約30%程度のエネルギー使用量の削減を実現しています。

### ①デシカント空調

外気を地中配管に取り込んだ後、地中熱にて温度調整を行い、デシカント（吸湿材）で湿気を除去した空気を使用しています。



↑デシカント空調の地中配管

デシカント  
空調 ↓



### ②太陽熱温水器

太陽光を熱源として、水を温めてつくった温水を給湯できる自然循環式の装置です。同ホテルでは、ホテル内の給湯をほぼまかなっているだけでなく、温泉の加熱などにも使用しています。



↑屋上に設置された太陽熱温水器

## ■改善効果と今後の取組

省エネに取り組んだことによって、エネルギーの使用量の削減につながっただけでなく、EMSの導入により、従来、外部に委託していた設備の維持管理も、自社で行えるようになり、コストの削減につながりました。また、季節や時間帯に応じて、手動で、窓にブラインドを降ろすなど、こまめな維持管理も行っています。

設備周りを担当されている直簗（すぐの）俊行さんは、「これからも省エネの取組を推進しながら、お客様に快適な空間を提供していきたい。」とお話していました。



設備管理の担当者と記者

一般財団法人省エネルギーセンター  
によるおトクな支援情報

○無料の省エネ診断

○省エネのお悩み、  
何でも相談  
（相談窓口）

○省エネ設備・  
機器導入費用  
補助支援



～次回予告～

省エネ最前線 Vol.3 小売業編



# ～省エネで経営力アップ～ Vol.2 ホテル・旅館業・宿泊業編

## ホテル・旅館業・宿泊業から エネルギーの賢い使い方を学ぼう！



オフィス・  
事務所

ホテル・  
旅館・  
宿泊業

製造業

飲食業

小売業

運輸業

### 県内のエネルギー動向

#### (ホテル・旅館業・宿泊業)

沖縄県の主力産業でもあり、県経済の順調な発展を支えている観光業ですが、県内主要ホテルでは、客室稼働率が、概ね8割の高水準となるなど、順調に推移しています。

一方、気になるのが稼働率向上に伴うエネルギー消費の増加ですが、「ホテル・旅館業・宿泊業」の施設内におけるエネルギー消費原単位（エネルギーの効率を表す指標）は、対前年度比で96.7%と改善しており、各事業所において、省エネ対策に効果的に取り組んでいる意識の高い事業者が多いことがうかがえます。（平成30年度沖縄県内における省エネ法特定事業者等の概況より）

### ホテル・旅館業・宿泊業 向けの省エネ対策

ひとえに「省エネ対策」といっても、ホテルや旅館は1年を通して24時間営業を行っている場合が多く、客室や宴会場での冷房・温水・照明の使用など、それぞれの用途に応じたエネルギー管理を行わなければなりません。また、何より、サービス業として、いかに「快適性」を保ち、お客様満足度を損なわない省エネを実現できるかが重要になります。その点を踏まえて、省エネの取組事例をご紹介します。

① 高効率照明・空調機の導入

照明設備や空調機といったエネルギー使用量の大きい機器を、より高効率な機器に更新、あるいは新規導入することで、電気料金的大幅な削減が可能となり、最も省エネ効果を実感することが出来ます。また、既存の空調機及び給排気ファンの運用時間の見直しや、季節・時間帯に応じ、適切に温度管理を行う事でも十分な省エネ効果を生み出すことが出来ますので、こまめな対策が重要です。

### ② 断熱・遮熱の取組

日差しが強く、年中温暖な沖縄においては、室内の温度は窓などからの外気の影響を受けやすい為、「断熱」と「遮熱」の取組は重要です。ガラス窓からの日射を遮るため、ブラインドカーテンの活用や、遮熱フィルムを貼るなどの省エネ対策を取り入れた事例があります。また、現在は、窓枠や、ガラスそのものに断熱加工が施されている省エネ製品も多くあります。

### 省エネ推進体制は 整っていますか？

省エネの取組を推進するにあたっては、社内の各セクションと連携して、省エネを経営課題として位置づけ、社内全体で継続して取り組むことが重要になります。その舵取りとして、「省エネ委員会」などの省エネを推進する体制を構築し、省エネ機器の導入の検討や設備ごとの管理標準（省エネのための管理要領を定めた管理マニュアル）の策定など、エネルギーの使用状況や改善策を議論出来る環境をつくることが求められます。

外調機の換気用外気導入量を削減し、  
冷暖房用熱源の蒸気を低減、  
ボイラー燃料使用量を削減すると  
**1,000万円／年以上削減！**

お得！

温水配管の保温対策をすると  
**18万円／年以上削減！**

お得！